

九州支部

を認め、細胞診で Class V の診断であり、S 63.7.7 胸骨正中切開にて手術を施行した。ポタロー靭帯を切離、上行大動脈と右主肺動脈をテープで牽引し気管支 3 軟骨輪を切除した。病理診断は腺様嚢胞癌であった。微小腺様嚢胞癌に対し胸骨正中切開でアプローチし切除した症例を報告した。

56. 胸膜肺全摘後 4 年生存中のびまん性胸膜中皮腫の 1 例

大分医大第 2 外科 田中康一
近間英樹, 葉玉哲生, 高崎英巳
森 義顕, 岡 敬二, 重光 修
藤島公典, 内田雄三, 調 巫治
同 中検病理 横山繁生
同 第 2 内科 田代隆良
48 歳女性。昭和 57 年 11 月検診にて胸水を指摘される。昭和 60 年 2 月胸水の細胞診で悪性中皮腫が疑われ入院。同年 4 月手術を行った。胸膜には無数の小結節が見られた。胸膜肺全摘術を行ったが、すでに腹膜にも浸潤がみられ(病期 III 期)、根治性はないと考えた。術後はフトラフルの経口投与、シスプラチンの胸腔内投与を行った。4 年後の現在、再発なく健在である。病理診断はびまん性悪性胸膜中皮腫、上皮型であった。

57. 当院において経験した中皮腫の 2 例

佐世保市立総合病院内科
西川泰彦, 松竹豊司, 賀来満夫
増本英男, 荒木 潤, 浅井貞宏
長崎大第 1 病理 池野雄二
松尾 武
中皮腫 2 例を経験した。症例 1 は 87 歳男性で主訴は胸痛、胸部 X 線にて胸水と胸膜肥厚を認めた。胸水は浸出液で LDH が高値であったが悪性細胞を認めず、経皮的生検にて悪性中皮腫と診断したが、呼吸不全にて死

亡した。アスベストの暴露歴は無く、病理学的にも認めなかった。症例 2 は 81 歳女性。検診にて左腫瘤影を指摘され手術を行い限局性良性中皮腫と診断した。共に細胞診による診断は難しく組織診が必要であると思われる。

58. 肺に主病巣を持つ悪性リンパ腫と肺扁平上皮癌の合併した 1 症例

長崎県立島原温泉病院
田中研一, 福島喜代康
山田由美子, 中村秀夫
田中俊郎, 岡本純忠, 蓮本正詞
長崎大付属病院検査部病理 島田 修

症例は 74 歳男性、右胸部異和感にて近医を受診し、胸部 X 線上下右肺野の異常陰影を指摘され、当科へ紹介された。精査の結果、右下肺野の悪性リンパ腫、胃十二指腸悪性リンパ腫、左肺扁平上皮癌、の診断を得、右肺下葉切除、その後左肺下葉切除、空腸切除を施行した。術後標本より、左肺扁平上皮癌は早期であった。今回は肺に主病巣を持つ悪性リンパ腫と早期肺扁平上皮癌の合併した希有な 1 例を経験したので報告した。

59. 慢性膿胸に合併した悪性リンパ腫の 1 例

大分市医師会立アルメイダ病院
佐藤邦彦, 一万田充俊
田中雄治, 永井寛之, 甲斐隆義
症例は、74 歳の男性で、右側胸部有痛性腫瘤を主訴に来院。結核性胸膜炎の既往歴と胸写および胸部 CT から慢性膿胸の胸壁穿通を疑い、肺剥皮術施行。穿通と思われた部位の迅速病理診断にて非ホジキン悪性リンパ腫と診断された。肺内に浸潤はみられず、肺剥皮術および胸壁腫瘤切除のみ施行。術後、化学

療法を計 7 クール行い、2 年 9 カ月を経た現在も元気に日常生活を送っている。本邦では、16 例目の報告である。

60. リンパ増殖性疾患の 4 例

長崎大第 2 内科 宮崎義継
生野信弘, 広瀬清人, 千住玲子
早田 宏, 木下明敏, 谷口哲夫
力竹輝彦, 鶴川陽一, 神田哲郎
原 耕平
同 第 1 外科 富田正雄

肺リンパ増殖性疾患の 4 例について検討した。内訳は、悪性リンパ腫 2 例、偽リンパ腫 2 例であった。悪性リンパ腫の 1 例は剖検にて初めて診断し、他の 1 例は、血清及び BAL 液中 monoclonal IgM を呈した。偽リンパ腫の 2 例は、肺外病変を有した為、悪性リンパ腫に準じて治療した。悪性リンパ腫と偽リンパ腫の異同については論議のあるところであるが、リンパ増殖性疾患は嚴重な経過観察が必要であると考えられた。

61. 肺の腫瘍類似病変についての検討

長崎大第 2 内科 松田治子
広瀬清人, 早田 宏, 木下明敏
谷口哲夫, 力竹輝彦, 鶴川陽一
神田哲郎, 原 耕平
長崎県総合保健センター
富田弘志
長崎大第 1 外科 綾部公認
富田正雄

当科で経験した腫瘍類似病変のうち、過誤腫 8 例、硬化性血管腫 6 例について検討を行った。両疾患共に検診発見例が多かった。過誤腫は男性に多く、石灰化を半数に認めたが CT で初めて石灰化の指摘可能な例もあった。硬化性血管腫は全例女性で、CT 上造影効果の認められた例が多かった。両疾患共に良性腫瘍を疑うものの、術前の